

19

103

憲法論綱

031535-000-9

19-103

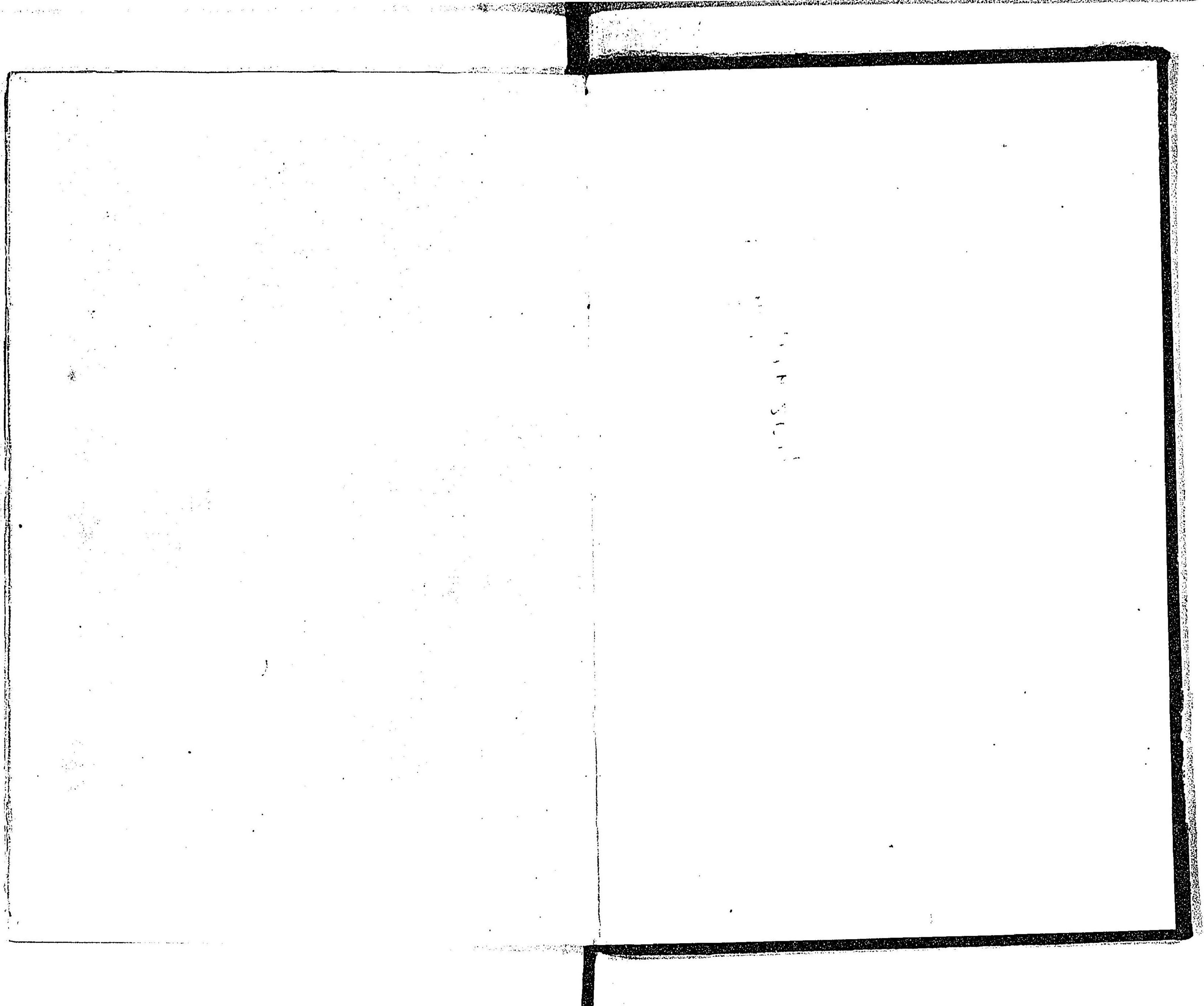
憲法論綱

ゼルミー・ベンサム/著

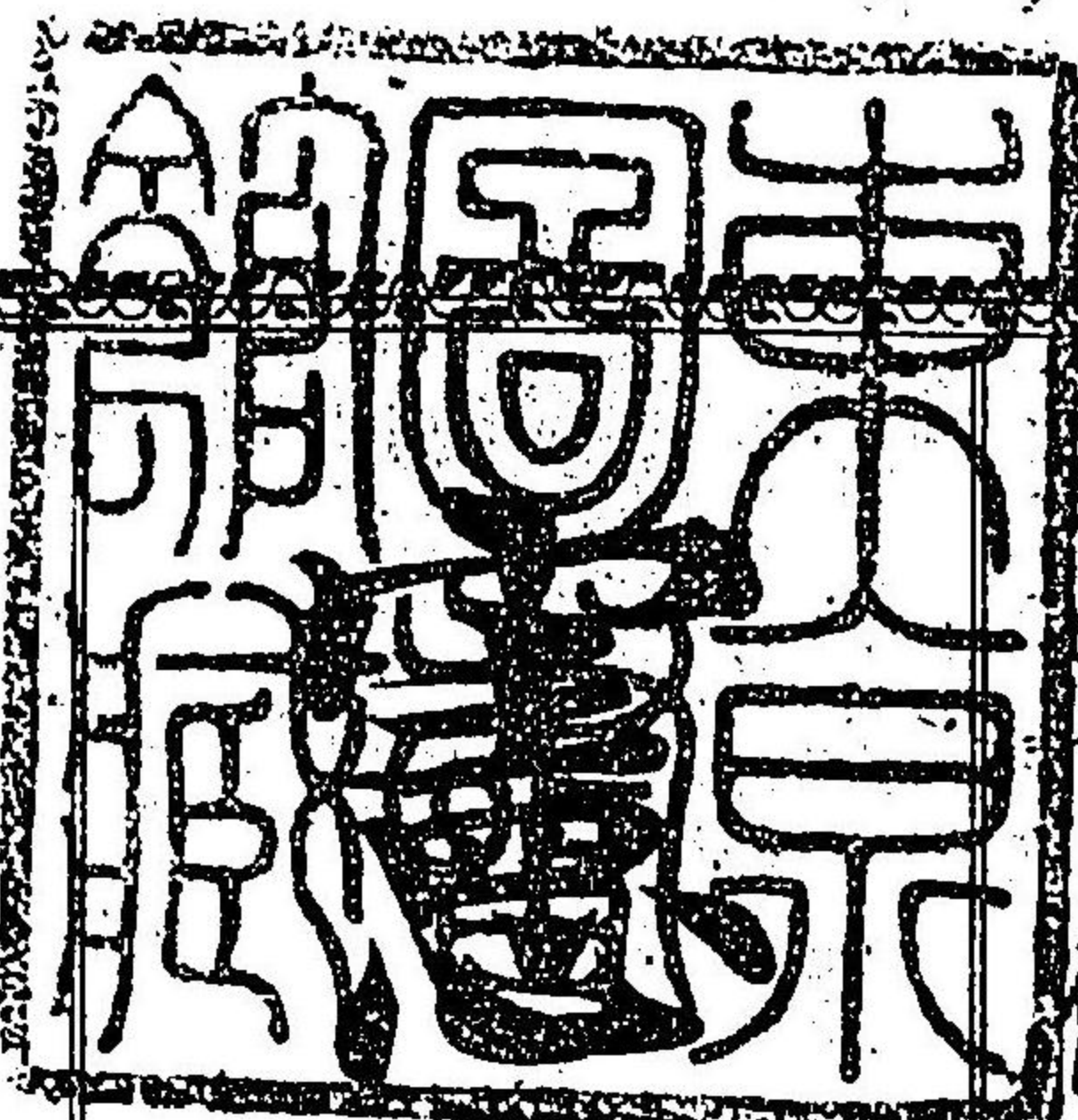
M15

BBE-0135





11111111



英國  
日本

セル  
島田三郎  
佐藤覺四郎

著  
譯

明治二十年三月十七日 内務省登録 第 1163 号

# 法論綱 全

佐藤氏藏



憲法論綱緒言

夫レ法律ハ人民ノ權利ヲ制爲シ且ツ之ヲ確定シ由テ以テ人類ヲシテ幸福ヲ享受セシムルモノナリ其所謂權利トハ何ゾヤ人類ノ生活權及ビ自由行爲ノ權等是レニシテ即チ人類ガ其幸福ヲ享受スルノ器具タルモノトス而シテ苟モ人類相聚リテ一國社會ヲ組織スルニ方テハ各人其自由行爲ノ一部ヲ擲ケテ公共ノ犧牲ニ供セザルヲ得ズ其レ然リ然ラバ則チ夫ノ權利ト稱スル者ハ人類ノ未ダ一國社會ヲ組織セザル以前即チ野蠻未開ノ時ニ方テ寧ロ旺盛ナルモノ乎曰ク

二  
否夫ノ人類未開ノ時法律未立ノ日ニ在テハ各人任意  
ニ其天與ノ自由ヲ行フガ故ニ動モスレバ他人有スベ  
キノ疆界ヲ侵犯シ相互ニ恐懼ノ念ヲ生ジ爲メ一日  
モ安寧ノ日アラザリキ此時ニ當リテ權利ノ言フベキ  
モノナシ豈之ヲ以テ權利旺盛ナリト云ハンヤ依是觀  
之開明ノ今日各人ガ其天與自由ノ一部ヲ割テ之ヲ公  
共ノ犧牲ニ供スルハ由テ以テ安寧ヲ買ハント欲スル  
ニ起因スルモノナリ  
抑法律ノ性質タルヤ害惡ナリ何ントナレバ法律ハ吾  
人ニ向テ曰ク甲ノ事ヲ爲スベシ曰ク乙ノ事ハ爲ス可

カラズト之ヲ要スルニ人々ノ自由ヲ抑制スルモノナ  
レバナリ且ツヤ善良ノ法律ニシテ一國一般ノ幸福ヲ  
増進セント欲スルモ其ノ小部分ニ害惡ヲ蒙ラスコト  
キ能ハズ何トナレバ茲ニ命令スレバ茲ニ從順セザル  
可カラザルノ義務ヲ生ジ茲ニ義務ヲ實行セザレバ茲  
ニ刑罰ヲ受クルノ苦痛ヲ生ズベケレバザリ  
其レ然リ然リト雖モ苟モ人類ニシテ道德至高ノ域ニ  
達セザルノ間ハ自由ヲ抑制シテ權利ヲ得セシムルノ  
法律ナルモノハ必須欠ク可カラザルモノニシテ猶ホ  
人ヲ殺スノ武器ノ必須欠ク可カラザルガ如シ然ラバ

則法律ナルモノハ如何ナル原理ニ依テ制定スベキヤ  
ヲ討究スルヲ以テ第二ノ要用トナサザルヲ得ズ  
物アリテ而後理アリテ而後學アルハ是レ自然  
ノ定則ナリ法律ノ物タルヤ源ナ太古社會創始ノ早世  
ニ發シ其理學ノ萌芽モ之ニ繼デ起ル然リト雖モ其後  
世ニ傳フベキノ迹ヲ見ルハ蓋シ希臘ノ盛時ニ在リ爾  
後法理ノ學盛ンニ行ハル、ト雖モ或ハ天然ノ理ヲ以  
テ法學ノ原理ヲ論ズルアリ或ハ道德ヲ以テ法理ノ基  
礎トスルモノアリ諸說駁雜未タ曾テ一定スル所アラ  
ザリキ然ルニ千八百年代ニ方リベンサム氏英國ニ起

リ實利ヲ以テ法理ノ基礎トシ最大數ノ人民ニ最大ノ  
幸福ヲ享受セシムルヲ以テ法律ノ目的トナシ痛ク諸  
說ヲ排擊セリ是レ英國ニ於テ法理學ノ一變セル期限  
ニシテベンサム氏ノ此學ニ功アルモ亦此ニ在リトス  
同氏ハ千七百四十八年ヲ以テ生レ千八百三十二年ニ  
至テ死ス政治、法律、經濟ニ關スル所ノ著書數多アリ  
此書ハ即チベンサム氏ノ著書ナリ原名ヲ「プリンシプ  
ルス、オフ、コンスタナクエシヨナル、コード」ト稱シ憲法ノ  
原理ヲ論述セルモノニ係ル書中分テ上下ノ二篇ト  
シ上篇ニハ憲法ノ目的ヲ論シ下篇ニハ其目的ヲ達ス

ルノ手段ヲ説キ立法者ヲシテ適從スル所ヲ知ラシメ  
 タルモノナリ抑同氏著述ノ立法論綱民法論綱刑法論  
 綱等ハ已ニ世ニ公ニシテ其名入ノ耳目ニ熟スルヲ以  
 テ此例ニ倣ヒ此書ヲ名ケテ憲法論綱ト云フ世ノ志ア  
 ル者之ヲ讀ンデ多少經世ニ裨益スル所アラバ予ノ幸  
 福之ニ尙フルモノナク譯述ノ勞モ亦徒爲ニ屬セザラ  
 シ歟

明治十五年七月

佐藤覺四郎 識

例言

- 一書中字傍ニ圈點ヲ施シタルハ文中ノ主眼ナリ
- 一書中〔註〕トアルハ著述者ノ註解ナリ
- 一書中〔按〕トアルハ譯述者ノ註解ナリ
- 一書中右傍ニ雙柱ヲ施シタルハ地名ナリ
- 一書中右傍ニ單柱ヲ施シタルハ人名ナリ

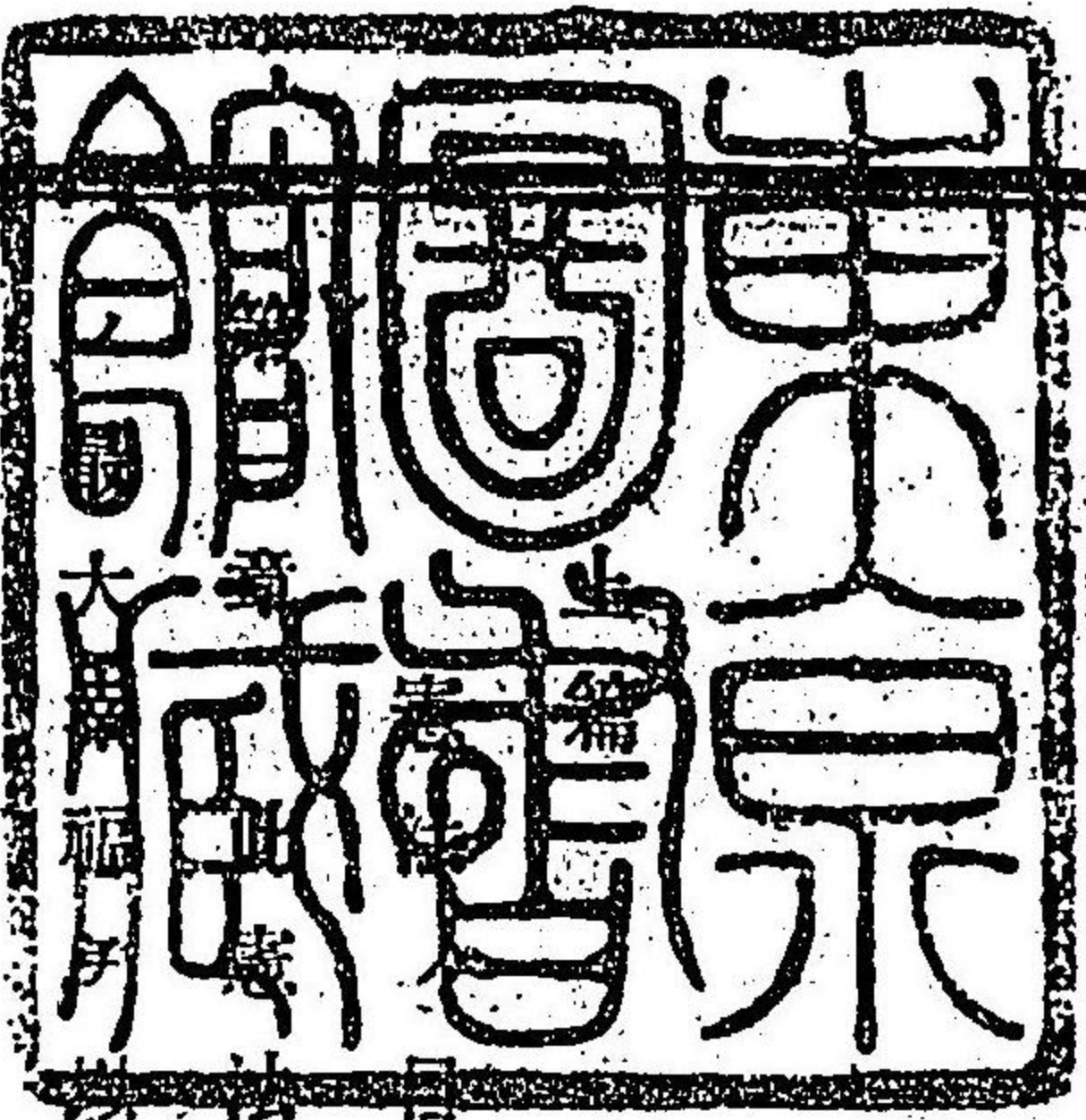
憲法論綱

目次

上篇 憲法ノ目的  
下篇 憲法ノ目的ヲ達スル最要ノ諸手段



憲法論綱



英國

セルミール、ペンサム

著

日本

島田三郎

閱

佐藤覺四郎

譯

目的  
 按ハ最大數即今政治社會ノ社員ノ最大數  
 一一般ノ目的トス更ニ之ヲ云ハ其社員  
 利益ヲ發達増加セシムルヲ以テ一般ノ目的トス此利益  
 之ヲ稱シテ一般ノ利益ト云フ是レ憲法ノ  
 網羅シテ洩スコトナキ目的ニシテ左ニ記載シタル諸種ノ計

畫モ亦皆之ヲ成就スルノ方法ニ過ギザルナリ  
 〔註〕若シ爲スヲ得ベキノ時機アラシムハ此憲法タル何レ  
 ノ時宜ニ於ケルモ一般ノ利益ヲ集成スル所ノ各個人ノ  
 幸福ヲ至高ノ度ニ達セシムルナルベシ斯ク假定スルキ  
 ハ唯最大數ノミニ止マラズ一般ノ最大幸福ハ蓋シ希望  
 ノ目的ヲラントス  
 然リト雖此ノ如ク一般ニ最大幸福ヲ及ボスコトハ到底  
 能ハザルコトナリトス何ントナレハ幸福ノ總計ヲ増加ス  
 ルキニ方テ各個人ノ總數ハ曾テ含蓄サル、モノニアラ  
 ズ又損害ノ由テ成立スル所ノ不幸ト雖各個人ノ總數  
 ナシテ平等ニ之ヲ負擔セシムルコトヲ得ベキモノニアラ  
 ズ其損害タル刑罰ニ由テ生ゼラレタル苦痛ヨリ成立ス

ル場合ニ於テハ特ニ之ヲ然リトス  
 是レニ依テ之ヲ觀レバ政府ニ依頼スルニ止マリテ一國  
 一般ノ幸福ヲ至高ノ度ニ達セシメントスルニ人力ノ能  
 クスル最上ノモノハ唯最大數ヲシテ最大幸福ヲ得セシ  
 ムルニアリトス

第二章 政府ハ強壓ナクシテ活動スルコト能ハズ又強壓ハ  
 不幸ヲ生ズルコトナキ能ハズ是レ蓋シ勢ノ然ラシムル所ニ  
 シテ政治社會ノ常態ナリ故ニ政府ニ依テ生ゼラレタル幸  
 福ノ純量ハ其全量ヨリ政府ニ依テ生ゼラレタル不幸ヲ除  
 キ去リタル殘額ナルベシ  
 第三章 夫レ幸福ヲ本トシテ算用ヲ立テシカ政府ノ損害  
 ハ此ノ如クシテ生ゼラレタル不幸ヨリ構成セララル、モノ

ナリ而シテ政府ニ依テ生ゼラレタル幸福ノ純量ハ即チ此  
損害ニ反對シタルモノナルベシ

[按]損害ノ量多キハ幸福ノ純量少ク幸福ノ純量ト損害  
ノ量トハ常ニ并行セズシテ相反スルヲ云フ

第四章 凡ソ一國ノ人民タル者チ數フレバ何時之ヲ爲ス  
モ其多數ハ其國土ノ某部ニ生出シテ始終其國ノ住民タリ  
シモノヨリ成ルハ自然ノ勢ナリ然リ而シテ其利益ヲ謀ラ  
ンガ爲メ之ヲシテ義務ヲ負ハシメンガ爲メ或ハ兩者ヲ兼  
行ハンガ爲メ此等ノ住民ニ加フルニ諸種ノ他ノ人類ヲ以  
テスト雖モ其名稱ハ之ヲ後章ニ讓テ此ニ資セズ

第五章 憲法ノ直接ニ於テハ特立シ間接ニ於テハ交錯聯  
絡スル總目的ハ生計豊富安固平等ノ四者ナリトス而シテ各

々相侵ササル間ハ各至高ノ度ニ達セシメタル此四者ナリ  
トス

第六章 第一生計 生計ノ意義タル別ニ説明ヲ要セズ其  
字面ヲ以テ之ヲ見ルヲ得ベシ

[註]生計即チ生計ノ物體トハ之ヲ所有セザレバ現實ノ軀  
軀ノ苦痛ヲ生ズル各物ヲ云フモノニシテ其他如何ナル  
モノニモアラザルナリ而シテ生計ハ安固即チ生計ノ安  
固ト別異シテ之ニ含蓄セラレザル間ハ時間界ヨリ論ズ  
レバ一瞬時ニ限ラレタルモノト了解セザルベカラズ故  
ニ茲ニ謂フ所ノ至高ノ度トハ價值ノ諸原因即チ廣袤中  
ニ就テ唯各個人ノ數ニ依テ計量シテ廣袤ニノ適ス  
ル者ナリトス

第七章 第二豊。富。豊富ハ二個ノ故ヲ以テ幸福ノ手段ナ  
 リトス何グヤ曰ク其豊富ナルコト生計ヲシテ安固ナラシ  
 ムルノ手段ナルコト是レナリ而シテ生計ヲシテ安固ナラ  
 シムルノ手段タルニ就テ之ヲ云フキハ其必要タル已ニ豊  
 富ナル人ニ於ケルヨリハ未ダ豊富ナラザル人ニ於テ寧ロ  
 大ナルベシ

〔按〕幸福ノ手段トハ人類ノ幸福ヲ享受スルノ手段トナル  
 諸物ヲ云フ例セバ豊富ニ因テ幸福ヲ得ベシ是レ豊富ハ  
 幸福ヲ得ルノ一手段ナリ

第八章 第三安。固。安固ニ二種アリ持。安。ノ安固ト防。害。ノ  
 安固ト是レナリ持安ノ安固トハ即チ生計若クハ豊富ヲ安  
 固ナラシムル所ノモノニシテ蓋シ此二者ノ外ニ出デズ

第九章 防。害。ノ安固トハ即チ天災ヨリ起ル害悪若クハ敵  
 對ヨリ起ル害悪ヲ防禦スル所ノモノニシテ又此二者ノ外  
 ニ出デズ

第十章 其天災ト稱スルモノハ痛苦ノ廣ク衆人ニ及ブヲ  
 以テ其量通常同一ノ原因ヨリ生ズル者ニ超加シ且其量ト  
 異リタル場合ニ於ケル人類ノ痛苦ヲ云フ

第十一章 今天災ヨリ起ル害悪ト敵對ヨリ起ル害悪トノ  
 二者ヲ考察スルニ蓋シ天災ヨリ起ル害悪トハ單純ニ天然  
 カニ由テ起ルモノヲ云ヒ敵對ヨリ起ル害悪トハ人爲ニ由  
 テ起ルモノヲ云フ然リト雖モ單純ナル天然力ヨリシテハ  
 人爲ノ之ヲ生成シ若クハ之ヲ増サハル所ノ害悪ヲ生ズベ  
 キモノニアラズ

第十二章 天災ノ最重ナル原因ハ之ヲ洪水、大火、崩潰、破裂、時疫、飢饉ノ類トス

第十三章 人其爲害者ノ敵對ニ對シテ安固ヲ必要トス此爲害者ハ或ハ外部ニ在リ或ハ内部ニアルノ區別アリ而シテ其外部ニ在ル所ノ爲害者トハ普通外敵ト稱スルモノ是レナリ

第十四章 内部ニ在ルノ敵手ニシテ之レニ對シテ安固ヲ必要トスル所ノモノニ二種アリ曰ク在官ノ敵手及ヒ非官ノ敵手是レナリ

第十五章 非官ノ敵手トハ普通ニ犯罪人、有罪人、重罪人ト稱スベキ所ノ爲害者ヲ云フ此等ノ爲害者ニ對シテハ抵抗スルヲ易クシテ隨所ニ抵抗スベク而シテハ多ク之レニ勝

ッ者ナリ

第十六章 在官ノ敵手トハ何ゾヤ其爲害ノ手段ヲ其得タル所ノ政權ノ一部分ヨリ取ルモノ是レナリ而シテ此等ノ爲害者中ニハ高等ノ人アリ又高等ノ人ノ爲メニ保護セラレタル下等ノ人アリトス此等ノ爲害者ニ對シテハ隨所ニ之レニ抵抗シ難シ

第十七章 前章ニ記述シタル如キ内部ニ在テ抵抗スベカラザル敵手ノ其位置ヲ保ツ間種々ノ手段ヲ以テ爲ス所ノ害惡ニ對シテ公衆ノ安固ヲ豫備セザルヲ得ズ而シテ其安固ヲ預備スルハ法律中憲法ノ部類即チ本案ヲ以テ其最モ適當ナル職務ナリトス

第十八章 憲法ハ其困難ナレトモ他ノ諸法ニ勝ルガ如ク其

緊要ナルトモ亦他ノ諸法ニ勝レリ而シテ各個人ノ集合ノ  
臨ム危難ニ就テ論ゼンニ先ヅ一個人ヲ以テ之ヲ云ハシカ  
其危難ノ大小ハ其受クル所ノ害惡ノ酷烈、連綿、近寄、確實ノ  
集結シタル割合ナルベシ而シテ總体ヲ以テ之ヲ云ハシカ  
危難ニ臨ム人員ノ多寡ヲ以テ計量セル廣袤ノ割合ナルベ  
シ此等ノ廣袤ノ各々ニ於テ害惡ヲ計量スルニ(即チ二個ノ  
場合ニ於ケル此等ノ價值ノ根因ノ各々ヲ算定スルニ)蓋シ  
社會ノ社員ガ其抵抗スルニ能ハザルノ敵手ニ臨ム危難  
ニ比較シテハ其抵抗スルヲ得ル敵手ニ臨ム危難タル至  
少ナルヲ見ルベシ何ントモレバ抵抗スルヲ得ル敵手ニ  
臨ム危難タルヤ只ニ一個人ノ上ニ及ブニ止リ抵抗スルヲ  
得ザル敵手ニ臨ム危難タルヤ國民一般ノ上ニ及ブ可ク

第十九章 一般人民ノ蒙ルベキ危難ニシテ其最モ恐懼ス  
ルモノハ公ケニ宣告シテ攻メ來ル外敵ヨリ寧ロ常ニ此  
人民ヲ保護スト託言スル所ノ内敵ニ在リトス今外敵ノ危  
難ヲ論ゼンニ蓋シ外敵ハ其來攻スル所ノ目的ヲ達スル時  
ハ必ズヤ飽クマテ人民ヲ苦メズ多クハ其進入シタル地方  
ヨリ引退クヲ以テ常トセリ極惡ノ場合ヲ假定スルモ國土  
ヲ舉ゲテ其所有ト爲スニ過ギズ而シテ此場合ニ於テハ即  
チ外部ニ在テ抵抗スルヲ得ベキ敵ヨリ變シテ内部ニ在  
テ抵抗スルヲ得ベカラザル敵トナルモノナリ  
第二十章 一切ノ法律ノ組織法ハ憲法ノ組織法ニ依遵ス  
ルモノナリ何トナレバ他ノ法律ヲ制定スル所ノ人ノ關係

適○當○ノ○意○想○ハ○必○ズ○常○ニ○憲○法○ニ○依○遵○ス○ル○モ○ノ○ニ○シ○テ○他○ノ○法  
 律○ノ○組○織○法○ハ○又○必○ズ○常○ニ○其○制○定○者○ノ○意○想○ニ○依○遵○ス○ル○モ○ノ  
 ナ○レ○バ○ナ○リ○故○ニ○若○シ○最○大○數○ノ○最○大○幸○福○ヲ○目○的○ト○シ○テ○憲○法  
 ナ○制○定○セ○バ○必○ズ○他○ノ○法○律○モ○亦○之○レ○ニ○準○ズ○ベ○ク○若○シ○然○ラ○ズ  
 シ○テ○憲○法○ヲ○制○定○セ○バ○他○ノ○法○律○モ○亦○之○レ○ニ○準○ズ○ル○モ○ノ○ナ○リ  
 第○二○十○一○章 第○四○平○等 前○章○生○計○豐○富○安○固○ノ○三○者○ヲ○論○ズ  
 ル○場○合○ニ○於○テ○ハ○此○等○ノ○モ○ノ○、○幸○福○ノ○手○段○タ○ル○ヲ○ハ○其○語○自  
 身○ニ○之○ヲ○説○明○シ○タ○リ○キ○然○レ○モ○今○此○平○等○ヲ○論○ズ○ル○場○合○ニ○於  
 テ○ハ○然○ル○ヲ○得○ザ○ル○ナ○リ  
 第○二○十○二○章 平○等○ノ○意○義○ハ○分○配○ノ○意○義○ヲ○含○蓄○セ○リ○分○配○ト  
 ハ○何○グ○ヤ○利○益○或○ハ○辛○苦○ノ○二○者○ノ○分○配○ノ○外○ニ○出○デ○ザ○ル○ナ○リ  
 而○シ○テ○利○益○或○ハ○辛○苦○ノ○名○號○ノ○下○ニ○分○配○ノ○意○義○ヲ○含○蓄○セ○ザ

ル○ハ○ナ○シ○即○チ○利○益○ハ○幸○福○ノ○手○段○ヲ○授○與○セ○ラ○ル○、○ニ○由○テ○分  
 配○セ○ラ○レ○辛○苦○ハ○幸○福○ノ○手○段○ヲ○剝○奪○セ○ラ○レ○若○シ○ハ○現○實○ノ○痛  
 苦○ヲ○課○セ○ラ○ル○、○ニ○由○テ○分○配○セ○ラ○ル○、○モ○ノ○ト○ス  
 第○二○十○三○章 平○等○此○ニ○去○ラ○ン○カ○其○去○ル○割○合○ヲ○以○テ○不○平○等  
 必○ズ○來○リ○不○平○等○此○ニ○來○ラ○ン○カ○其○來○ル○割○合○ヲ○以○テ○害○惡○必○ズ  
 生○ズ○今○先○ツ○試○ニ○幸○福○ノ○手○段○ノ○授○與○上○ニ○生○ズ○ル○不○平○等○ヲ○論  
 ゼ○ン○ニ○此○場○合○ニ○於○テ○ハ○二○個○ニ○區○別○ス○ベ○キ○害○惡○ヲ○含○蓄○セ○リ  
 其○一○ハ○家○事○的○即○チ○交○際○上○ノ○害○惡○ニ○シ○テ○其○一○ハ○國○事○的○即○チ  
 憲○法○上○ノ○害○惡○ト○ス  
 第○二○十○四○章 家○事○的○ノ○害○惡○ト○ハ○分○配○セ○ラ○ル○、○物○ノ○富○即○チ  
 生○計○豐○富○ノ○外○ニ○出○ズ○シ○テ○起○ル○所○ノ○害○惡○是○レ○ナ○リ○而○シ○テ○其  
 來○ル○如○何○ト○云○フ○ニ○各○人○ノ○有○ス○ル○幸○福○ノ○手○段○ノ○割○前○ニ○シ○テ

倍々平等ニ遠カルキハ此等割前ノ總高ヨリ生ズベキ幸福ノ總高倍々少ナルガ爲メニ來ルモノ是レナリ

第二十五章 國事的即チ憲法上ノ害惡トハ何ゾヤ即チ分配セラル、物ノ權力ノ外ニ出デズシテ起ル所ノ害惡是レナリ然リ而シテ其害惡ノ來ル所以ハ權力ヲ有スルヲ愈々多額ナルキハ之ヲ妄用スルヲ容易ニシテ又之ヲ妄用スベキ刺衝ヲ受シルヲ倍々大ナルニテアリ而シテ直接ニ於テハ此事タル唯權力少ニ適合セルモノナリ然リト雖モ權力ト富トハ亦其關係有クモツヨシテ其甲ヲ得レバ又其乙ヲモ之ヲ得ルノ手段多クベキガ故ニ此論ヤ亦富ニモ適合スル者トス

第二十六章 家事的及ビ國事的ニ生ズル不平等及ビ其不

平等ニ含蓄セル害惡ニ付テハ君主政度ヲ以テ之ヲ例スルニ足ル而シテ已ニ之ヲ例スルニ足ルト云ハ即チ是レ之ヲ証徴スルニ足ルベキ者アリ

第二十七章 不平等ノ極點ニ付テハ君主政度ノ各國ヲ以テ之ヲ例スルニ足レリ今夫レ富ノ事ニ付テ云ハ一萬人乃至十萬人ノ民計ヲ維持スルニ足ルベキ多量ノ資財ヲ國王ノ有スルハ即チ其資財タル多クハ其人民ノ勞力ヲ以テ生出シタル後ニ逼取セラレタル者ナリ其レ然リ而シテ此ノ如クシテ國王一個人ノ胸臆中ニ生ズル幸福ノ量ト此ノ如ク逼取セラレズンバ勞力者即チ人民各個人ノ胸臆中ニ平均ニ享受スベキ幸福ノ量ト之ヲ比較セバ何ソカ大何ソカ小ナルヤハ未ダ冰解セザルノ疑問ナリ



第二十八章 夫レ然リ然レモ常ニ憂鬱シ若クハ酒毒ニ冒  
 サレタルカ然ラザレハ恒ニ多病ナル君主ニ由テ享受セラ  
 レタル幸福ノ量ハ常ニ爽快ニシテ健全ナル勞力者ニ由テ  
 享受セラレタル幸福ノ量ニ及バザルコトハ蓋シ是レ疑ナ容  
 ル可カラザル所ノ事實ナリ  
 第二十九章 若シ夫レ之レニ反シテ前ニ述ベタル如キ多  
 額ノ資財ニ依テ維持セラル、所ノ君主ト雖モ其資財ノ手  
 段ニ依テ幸福ヲ生出スルコト君主ノ資財ニ比シテハ其資財  
 百分ノ一ニモ足ラザル所ノ民主國ノ統領ヨリモ果シテ大  
 ナルモ其費用若ク大ナルモ亦以テ徒費トナス可カラズ  
 然レモ是レ決シテ之ヲ必ス可カラズ若シ夫レ果シテ之ヲ  
 必スベシト主張スル所ノ人アラハ是レ宜ク其事實ヲ証明

スベキナリ

第三十章 若シ幸福ヲ受クベキ手段ノ最多量ヲ有スル人  
 ニシテ幸福ノ質量其手段ニ比例スルモ小ナリトセシニ  
 此人ト種族ヲ共ニスル人ニシテ同様ナル多量ノ幸福ノ手  
 段ヲ有セザルトセバ其幸福ノ質量ハ更ニ小ナルベシ此ノ  
 如クニシテ其手段愈々小ナルニ隨ヒ其實量倍々小ナルベ  
 キナリ夫レ然リ故ニ專制ノ君政ニ在テハ幸福ノ外部ノ手  
 段其分配ノ不平等ナルヲ以テ幸福ノ質量ヲシテ至高ノ度  
 ニ達セシムルコト最モ難シトス而シテ純然タル貴族政治ノ  
 如キハ亦之レニ次グモノトス  
 [按]幸福ノ手段トハ富ノ如キモノヲ云フ  
 第三十一章 是ニ依テ之ヲ觀レバ一國ノ人民各個ノ間ニ

幸福ノ手段ヲ享受スル其分量不平等アルコト少ナケレバ幸福ノ質量ノ總額ハ之レニ反シテ大ナルコトハ推シテ知ル可シ但シ不平等ヲシテ平等ナラシメンガ爲メニ前章ニ記載シタル所有權ニ關セル安固ニ激動ヲ生ゼザラシムコトヲ要ス今之ヲ簡單ニ説明セン

第三十二章 幸福ノ外部ノ手段ヲ分配スルコトニ付キ不平等少ナキ時ハ幸福ノ質量ハ之レニ反シテ大ナルモノトス但シ安固ヲ激動セザラシムコトヲ要ス

第三十三章 痛苦ノ分配ニ二種アリ曰ク罪科ニ關スル者及ヒ罪科ニ關セザル者は是レナリ何チカ罪科ニ關セザル痛苦ノ分配ト云フ政府ノ費用ヲ支出スルガ爲メニ人民ヲシテ痛苦ヲ負擔セシムル如キ是レナリ

第三十四章 罪科ニ關スル場合ニ於テ課セラレタル痛苦ハ其身ノ罰トシテ行ハル、カ然ラザレバ其罪科ノ他人ヲ損害シタルニ依リ之ヲ賠償セシメ他ニ其利益ニ與フルガ爲メニ行ハル、モノトス

第三十五章 授與セラレ、場合ニ於テノ不平等ヨリ生ズル害惡ニ相對シテ剝奪セラレ、場合ニ於テノ不平等ヨリ生ズル害惡アリ而シテ其剝奪トハ幸福ノ外部ノ手段ヲ剝奪セラレ、トニシテ多クハ富ノ剝奪ナリ夫レ然リ他ノ事情異ナルナケレバ幸福ノ手段ヲ有スルコト愈々少ナケレバ其幾分カチ剝奪セラレ、場合ニ於ケル幸福ノ失愈々大ナルモノトス今之ヲ詳説スレバ一百磅ヲ所有セル人ノ懷中ヨリ五十磅ヲ剝奪スルハ其心幸福ノ失ヲ感ズル二百磅

ナ所有セル人ヨリモ大ナリトス若シ又然ラズシテ其所有  
 スル所百磅ニハアラズシテ唯ニ剝奪セラル、所ノ五十磅  
 ニ止ルルハ幸福ノ失チ感ズル倍々大ナルベキナリ  
 第三十六章 政府ノ生出セル幸福ニ付キテノ論ハ茲ニ之  
 ナ止メ是レヨリ其幸福ヲ生出スル手段ニ用ヒラレタル損  
 害トシテ考フベキ不幸ニ付キテ論述セントス而シテ其生  
 出スル所ノ幸福ハ之ヲ至高ノ度ニ達セシメノヲ以テ目  
 的トシタリシガ之レニ反シテ其生出スル所ノ不幸ハ之ヲ  
 至最低ノ下ニ止メシメノヲ以テ目的トス今先ヅ其生出  
 セル損害ノ不幸ニ付キ之レガ原因ヲ論出セン  
 第三十七章 損害ハ害悪ナリ而シテ其害悪ハ如何ナルモ  
 ノゾ曰ク其現在蒙ムル所ノ害悪ヨリモ尙ホ大ナル所ノ害

悪ヲ除クガ爲メカ或ハ得失相償フニ餘リアル所ノ幸福ヲ  
 生出センガ爲メニ惹起ス所ノ害悪ナリ而シテ此害悪タル  
 ヤ之ヲ刑罰ト苦惱トノ二者ニ分別スルヲ得  
 第三十八章 刑罰ハ害悪ナリ則チ刑罰ヲ設クルハ爲メニ  
 幸福ヲ得ベキ直接ノ手段トシテ(即チ實效アル原因トシテ)  
 思考セラレタル趣意ヨリ生セル害悪ナリ  
 第三十九章 苦惱ハ害悪ナリ即チ害悪ヲ除クカ或ハ幸福  
 ナ生ゼンガ爲メニ行フタル所爲ニ作フノ結果トシテ生ズ  
 ル害悪ナリ然レモ此結果ハ幸福ヲ生シ害悪ヲ除クガ爲メ  
 ニハ實效アル原因ニアラズ  
 第四十章 前ニ述ベタル如ク政府ノ損害ニ就キ若シ其形  
 ナ以テ論ズルルキハ則チ金錢ニ關スルモノト金錢ニ關セザ

ル○モノトノ二様アリ而シテ其損害ハ二様ノ外ニ出アザル  
モノトス

第四十一章 政府が與フル所ノ損害ニシテ金錢ニ關セザ  
ルモノトハ廣ク苦惱ヲ指シテ謂フ者ナリ而シテ苦惱ノ最  
ナルモノハ迫テ使役スルコト是レニシテ此使役ノ最ナル者  
ハ強テ兵役ニ服セシムルコト是レナリ

第四十二章 政府ノ損害ハ其形ノ如何ヲ問ハズ必ズ人  
民ニ苦惱若クハ刑罰ヲ與フルカ或ハ又同時ニ此兩者ヲ與  
フルカ若クハ刑罰ヲ畏怖スル念慮ヲ與フルコトナシニハ充  
分ニ之ヲ爲スコト得ズ

第四十三章 政府ニ依テ施行セラル、凡口ノ事業ハ必ズ  
ヤ一ハ以テ人民ニ刑罰ヲ與ヘ若クハ之ヲ畏怖セシメ又一

ハ以テ褒賞ヲ與ヘ若クハ之ヲ希望セシムル手段ニ依テ施  
行セラレズンバアラズ

第四十四章 褒賞ノ事タルヤ一事業ヲ成シタルカ或ハ之  
ヲ成シ得ベク仮定セラレタルカ若クハ殆ンド之ヲ成サン  
トスル人ニ之ヲ與ヘテ以テ其胸中ニ幸福ヲ生ズルノ具ナ  
リト思考セバ亦幸福ノ一部分ナリ

第四十五章 又褒賞ノ事タル若シ其レ高大ナルカ政府ハ  
前ニ述ベタル如キ苦惱若クハ刑罰ノ形ヲ有スル損害ニヨ  
ラザレバ之ヲ與フルコト得ズ

〔按〕政府ノ褒賞ヲ行フヤ必ズ之ヲ人民ヨリ徴收セザル可  
カラズ而シテ之ヲ受クル人ハ幸福ヲ感ズルト雖モ之  
ヲ出ス人民ハ害惡ヲ覺フルヲ以テ此ノ如ク論述セルモ

ノナリ  
 第四十六章 是故ニ如何ナル時宜ニ於テモ如何ナル目的  
 ニ於テモ政府ハ前ニ述ベタル如キ害惡ナクシテ幸福ヲ生  
 ズルコトヲ得ズ其幸福ヲ生ズルヤ必ズ害惡ニ依ラズンバア  
 ラザルナリ  
 第四十七章 故チ以テ政府ニ依テ生ゼラレタル幸福ノ純  
 量ニ瑕缺ヲ與ヘズシテ一國ノ幸福ヲ至高ノ度ニ達セシメ  
 ヲトセバ各種人爲ノ褒賞(是レ社會ノ損害ニシテ政府ノ手  
 ニ依テ與フルモノ)ヲ各種ノ刑罰ト共ニ最低ノ下ニ止メザ  
 ルベカラズ

下篇

憲法ノ目的ヲ達スル最要ノ諸手段

第一章 此諸手段タルヤ一言以テ之ヲ包括スルヲ得ベシ  
 曰ク治者ノ適當ナル官職上ノ性質ヲシテ至高ノ度ニ達セ  
 シムルコト是レナリ  
 第二章 此性質タルヤ之ヲ三個ノ分類ニ別ツテ得ベシ即  
 チ其一ハ適當ナル道德ノ性質其二ハ適當ナル才能ノ性質  
 其三ハ適當ナル活潑ノ性質是レナリ  
 第三章 適當ナル才能ノ性質ハ又之ヲ二個ノ性質ニ分ツ  
 テ得ベシ曰ク適當ナル知識曰ク適當ナル判斷是レナリ  
 第四章 適當ナル道德ノ性質トハ何ゾヤ曰ク他ナシ百般  
 ノ時宜百般ノ方法ニ於テ最大數ノ最大幸福ヲ助長セシム

ルノ念慮即チ一般ノ利益ヲ發達増加セシムルノ念慮是レ  
 ナリ  
 第五章 若シ道徳ノ性質ニシテ幾何カ之ヲ缺クニアラバ  
 其結果ハ他ノ性質過重ナルガ爲メコ夫ノ適當ナル性質ノ  
 總額ヲシテ増長セシムルヲ能ハザルノミナラズ却テ之ヲ  
 減少セシムルモノトス故ニ其レヲシテ若シ最大數ノ幸福  
 ニ反對セシメシムル歟則チ其治者タル有力ナルニ隨テ益々有  
 害的ニ陷ルモノトス  
 第六章 諸々適當ナル官職上ノ性質ニ適用シ且之レト相  
 稱フ所ノ諸手段アリ今簡單ニ說明セバ其手段タル次章ニ  
 列記セル規則ヲ以テ之ヲ指示スルヲ得ベシ  
 第七章 第一 適當ナル道徳ノ性質ニ適用スベキ手段

第一則 其幸福ヲ以テ一般ノ幸福ヲ構成スル人民ハ常  
 ニ其幸福ヲ發達セシムベキ職務ヲ有スル代理人ヲ撰  
 擇スルノ權利ヲ掌握セザルベカラズ

〔註〕此計畫ニ就テハ此ノ如キノ計畫ハ内國ノ平和并  
 ニ安固ト兩立シテハ行ハレズト云フヲ根據トシテ  
 主張シタル難○實行トノ反對論ノ外道理ノ体面ヲ備  
 ヘタル一反對論アルヲ見ズ然リト雖モ北米合衆國  
 チ以テ此反對論ノ根據ナキコトハ充分ニ實驗ニ依テ  
 證明セラレタリ曾テ爲サレタル第一ノ實驗ニ依テ  
 證明セラレタリ且ツヤ新クニ憲法ヲ制定セントス  
 ル人ノ爲メニハ先ツ假リニ此ノ如キノ計畫ニ就キ  
 テ爲サレタル試設ハ大概皆失敗シタリトスルモ尙

ホ之ヲ措テ他ニ良法ナキヲ以テノ故ニ單ニ撰擇スベキモノトシテ殘存セザルベカラズ何ントナレハ下章ニ列記シタル如ク此憲法ハ外部ヨリ來ル抵抗ス可カラザル力ヲ減少スルヲ以テ無窮ニ維持スルノ道理上ノ屬望ヲ與ヘ之レニ反シテ其他各種ノ政体ハ其体ノ實質中ニ早晚起ラザルヲ得ザル自滅ノ種子ヲ含蓄スルヲ以テナリ

第八章

第二則 此等ノ代理人ガ害惡ヲ爲スベキ權力ヲ至少ニセザルベカラズ

第九章

第三則 又其幸福ヲ爲スベキ權力ハ成ルベク減少セザ

ルベカラズ

第十章

第四則 代理人ノ管理セル公用ノ金ヲ減少セザルベカラズ

第十一章

第五則 代理人ノ公用ノ金ヲ取扱フ期限ヲ短縮セザルベカラズ

第十二章

第六則 公用金ヲ出納スルノ手數ヲ省畧セザルベカラズ

第十三章

第七則 非常ノ褒賞ハ之レニ適當セル非常ノ行爲ナク

ンハ之ヲ與フベカラズ而シテ其行爲ヲ証スルニハ宜ク刑罰ヲ科スル爲メニ其罪業ヲ証スルガ如クス可シ

第十四章

第八則 権力ト金錢トヲ委任セラレタル人ノ責任ヲ至大ニセザルベカラズ

第十五章

第九則 此ノ如キ責任ヲ至大ニスルノ手段ハ常ニ其人ノ位地ヲ變換スルヲ得又現ニ之ヲ罰スルヲ得ルコアリ

〔註〕常ニ位地ヲ轉置スルヲ得又現ニ之ヲ罰スルヲ得トハ即チ責任アル代理人ヲ撰擧シタル人ノ手ヲ以テ間接或ハ直接ニ之ヲ爲スヲ云フ北米合衆國

ノ如キモノ是レナリ例セバ位地ヲ轉置スルヲハ直接ニ之ヲ爲シ之ヲ罰スルヲハ間接即チ他ノ代理人ノ手ニ依テ之ヲ爲ス

第十六章

第十則 前ニ記述シタル諸手段ニ由テ各代理人ハ何レノ時宜ニ於ケルモ私利ヲ計ルノ處置ト義務ニ隨フノ處置(即チ一般ノ利益中ニ自己ノ利益ノ割前ヲ有スルヲニ由ルノ處置)ト適合スルガ如ク事物ヲ理裁スルヲ要ス

第十七章 第二 適當ナル才能及ビ活潑ナル性質ニ適用スベキ手段

第一則 適當ナル才能及ビ活潑ナル性質ヲシテ奮起セ



シメントセバ宜ク官職上ノ義務ニハ何レモ適當ナル規矩ト安全トノ基礎ヲ固フセザルベカラズ

第十八章

第二則 凡ソ官職上ノ義務ニ就テハ何レモ規矩ト安全トノ効力ヲシテ至高ノ度ニ達セシメザルベカラズ

第十九章

第三則 百般ノ官職ニハ金錢ヲ望ミテ之レニ就クノ誘導ヲシテ最低ノ度ニ止メザルベカラズ

第二十章 第三則ノ由リテ基ク所ノ道理ハ次項ヲ讀ミテ之ヲ知ルベシ

第一項 官職ニ附属スル所ノ義務ヲ負擔スル者金錢ヲ要ムルヲ愈々少ナキキハ唯就職ヲ喜ブノ証愈々多シ

ト爲ス

第二十一章 其人若シ金錢ヲ受クルノ代リニ之ヲ與フルヲ喜ブキハ之ヲ前項ノ場合ニ比スルニ其人唯就職ヲ喜ブノ証尙ホ強シト爲ス

第二十二章 若シ又適當ノ報金ニ超過シテ之ニ過當ノ金錢ヲ與フルキハ一錢ハ一錢ヨリ其貪慾ノ情ヲシテ強カラシメ且ツ貪慾ノ手段ニ力ヲ與フルモノトス

第二十三章 非常ニ豐カニ奉養サル、者即チ王ハ何レノ國ヲ問ハズ必ズ厭クヲナキノ貪慾ヲ有スルモノナリ

第二十四章 前章ニ説明シタル適當ナル道德ノ性質ニ適用セル諸手段ハ北米合衆國ノ憲法中一トシテ其例ナキモノアラザルハナシ

第二十五章 政府が生ズル所ノ幸福ノミニ就テ云ハシカ  
此憲法ノ下ニ在リテハ其人口ニ比シテ其幸福ヲ受クルノ  
大ナル時ノ古今ヲ問ハズ他國ニ優レリ否現今ニ於テモ亦  
之ヲ然リトス

第二十六章 此一例ニ依テ視レバ政府ノ職務ヲ行フガ爲  
メコ人民ガ自ラ代理人ヲ擇ブコハ廣ク人民ノ性格ニ取テ  
不適當ナリトノ疑團ハ永ク之ヲ氷解スルコトヲ得ベシ而シ  
テ此ニ疑團ト稱スルハ心固ニ之ヲ疑フカ或ハ唯其口ニ藉  
セントスルモノヲ併セテ之ヲ云フ

第二十七章 其他何レノ國ニ於テモ北米合衆國ノ如ク政  
体ノ満足ヲ以テ著明ナリシモノアルヲ見ズ即チ政府ノ職  
務ヲ行フ所ノ人ト其人ニ依テ施サレタル法トノ満足アリ

シテ見ザリシナリ北米合衆國ノ如ク人民ノ數ニ比シテ其  
多數ガ常ニ政府ノ事務ニ參與シ又之ヲ監査セシ政治社會  
ハアラザリキ又之アルヲ見ザルナリ人民ノ多數政治ニ參  
與スル此ノ如クニシテ社會ノ秩序ヲ攪亂シ人民ノ苦痛ヲ  
惹起ササル北米合衆國ノ如キモノアルヲ見ザルナリ

第二十八章 蓋シ北米合衆國ノ如ク被治者即チ多數人ノ  
幸福及ビ利益ヲ治者即チ權力ヲ有スル少數人ノ爲メニ犧  
牲ニ供スル其度ヲシテ僅々ナラシメシ(奴隸ヲ購ヒ而シテ  
頑陋ニ之ヲ有スル州ハ之レヲ例外トス)憲法アルヲ見ザリ  
シナリ而シテ又疾ムベキ私利ノ尙ホ遺レル所ノモノヲ此  
ノ如ク困難ヲ受クル僅少ニシテ此ノ如ク確實ニ之ヲ禁遏  
シ得ベキ此ノ如キノ憲法アルヲ見ザルナリ又之レアラザ

リシナリ

〔按〕此章括弧中ニ奴隸云々ト記述シタルハ此著書タル北  
米合衆國ニ於テ一千八百六十一年ニ起リ同六十五年ニ  
至テ其局ヲ結ビタル南北戦争ナル内亂ノ以前即チ憲法  
上奴隸ヲ有スルヲ許セシ前ニ著述シタルモノニ係レ  
ハナリ

第二十九章 善。政府タルモノ、網羅シテ洩スヲナキ目的  
ニ就テハ以上之ヲ陳述セリ而シテ特別ノ目的ニ就テ之ヲ  
成就スベキ手段ハ未ダ之ヲ説明セズ是レ其目的ノ差アル  
ニ隨テ又手段ノ差アルヲ以テナリ蓋シ其手段タルヤ第一  
ニハ憲法第二ニハ刑法及ビ民法ヲ以テ論ズベキモノナリ  
大尾

明治十五年一月十六日板權免許

〔定價金卅八錢〕

同 年十月出版  
同 年二月再版

譯者兼出版人

佐藤覺四郎

千葉縣士族

東京本所區林町  
二丁目二番地寄留

發兌所

東京本所區林町二丁目二番地

天 社

日本橋區通三丁目

九屋 善七

京橋區銀坐四丁目

博 聞 社

同

小林新兵衛

芝區三島町

山中市兵衛

同西川岸町

須原 鉄二

神田區淡路町

巖 々 堂

京橋區南傳馬町

叢 書 閣

同小川町

集 成 館

印 刷

本所綠町四丁目

好 文 堂

大賣所

新刊書籍

英國法律博士ビンセント氏著

日本内閣總理大臣秘書官從五位法律學士金子堅太郎先生閱  
佐藤覺四郎譯

○ 讒謗法論

再版全一冊

定價金六十錢  
郵税不申受

右ハ英國諸裁判例ニ基キ誹毀讒謗ノ法理論議ト批評ノ區別名譽回復損害要償及之ニ  
對スル辯護ノ方法等凡テ讒謗ニ關スル事項ヲ明晰ニ詳論シタル者ニ係ルヲ以テ法家  
須讀ノ要典也

佛國故文部大臣ギグー氏著

日本河津祐之

嶋田三郎兩先生評序

○ 英國革命史

二冊

定價金壹圓  
郵税不申受

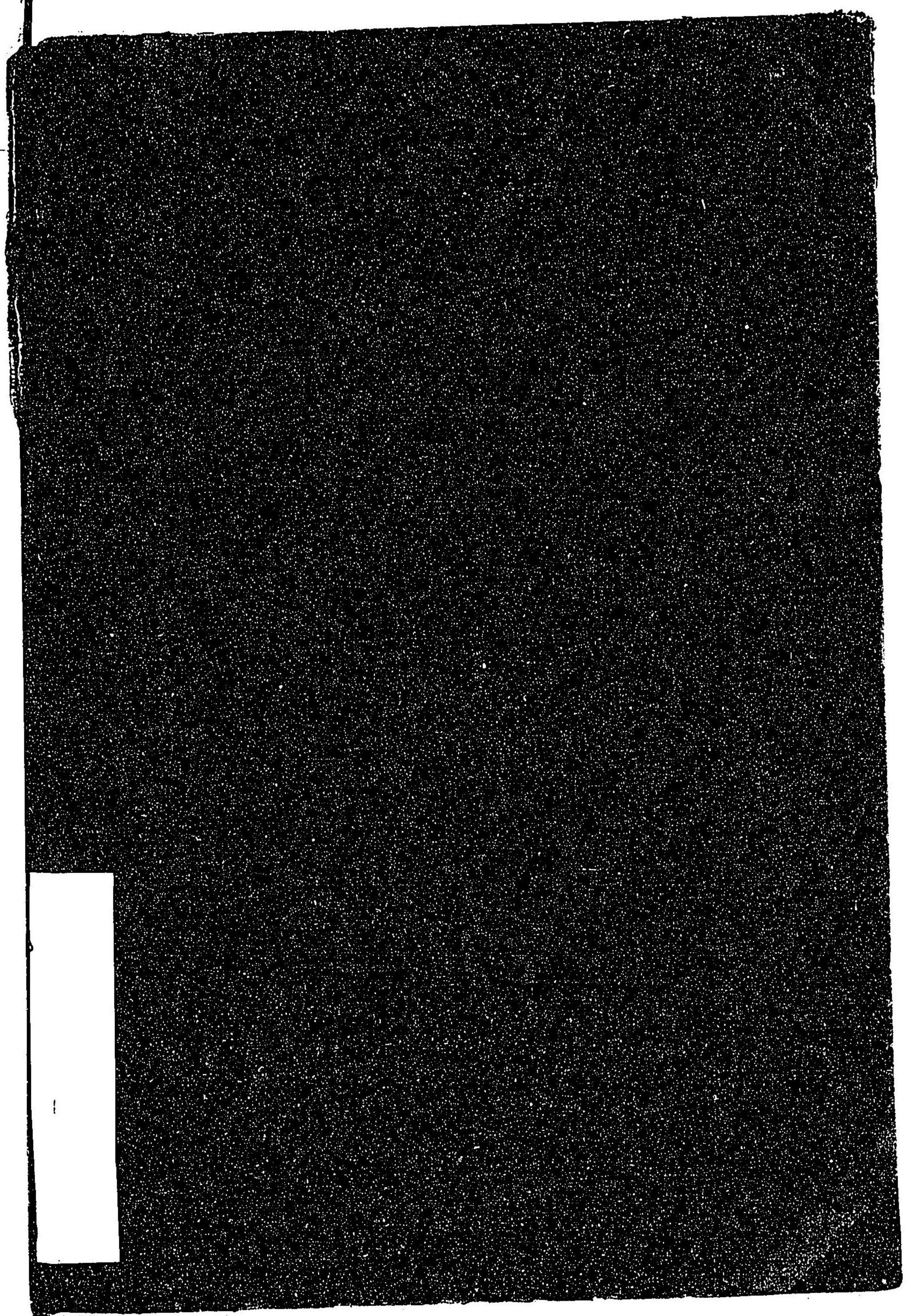
本書ハ有名ナル佛國ノ政治及歴史家ギグー氏ノ著ニ係リ歐洲各國政治社會ノ面目ヲ  
一變シ立憲政体設立ノ大原因トナリ日彼ノ佛國ノ革命ノ先驅タル十七世紀英國大革  
命ノ顛末ヲ詳細ニ叙記評論シタル者ナルヲ以テ志士須讀ノ良書也

發兌所

東京本所區林町三丁目二番地

聞天社

19  
103



[A small, vertical white rectangular area, possibly a label or a piece of tape, is located on the left edge of the dark area. It is completely blank and contains no text.]